

風水害から大切な命を守るために

港南区災害時要援護者支援パンフレット



近年、ゲリラ豪雨や台風などの大雨・暴風による被害が多発しています。大雨や台風は、発生時期や規模を事前に把握することがある程度可能であり、被害を少しでも少なくするためにも、**日頃の備え**が大切です。

- ◆ 自宅の災害の危険性を確認しましょう
- ◆ 避難場所を事前に把握しておきましょう
- ◆ 持ち出し品を準備しておきましょう

1 日ごろの準備と心構え

1 危険区域の確認

ハザードマップで自宅や周辺が危険区域に該当するか確認しましょう。

ハザードマップは横浜市ホームページで確認できます。港南区総務課窓口でも配布しています。

● 土砂災害ハザードマップ

集中豪雨や台風に伴う豪雨などにより、がけ崩れが発生し、被害を受けるおそれのある区域を土砂災害警戒区域などと示しています。

● 浸水ハザードマップ

浸水ハザードマップは、洪水・内水の2つのハザードマップを1冊にまとめたものです。

〔洪水ハザードマップ〕

河川の水位が上昇して、堤防を越えて水があふれ出して、浸水することが想定される区域を示したものです。

〔内水ハザードマップ〕

下水道や排水路の能力を超えて排水困難となり、水があふれて、浸水することが想定される区域を示したものです。



ハザードマップ 港南区



都市型水害への備え

横浜の市域は大部分がアスファルト道路等に覆われ、雨水が地中に浸透しにくくなっています。このため、集中豪雨等により河川や下水の排水処理能力を超えた雨水は低い場所に集まり、短時間のうちに浸水の危険が高まりますので、雨の降り方には十分注意しましょう。

● 地下施設の浸水

地下部分を有する建物、半地下住宅、地下駐車場などは、急に水が流れ込んで大雨で浸水する危険性が高いので、避難できず閉じ込められないよう、早めに安全な場所へ避難してください。

● アンダーパス等の冠水

地下状道路(アンダーパス)や低地では、大雨で冠水し車が水没する等の危険性があります。大雨の際は、通行は避けましょう。

避難場所への避難経路の検討

自宅から最寄りの避難場所への避難経路をあらかじめ複数検討しましょう。また、経路上に危険区域がないかも、ハザードマップで確認しましょう。

マイ・タイムライン作成シートを活用して、避難計画を作成してみましょう。



マイ・タイムライン 横浜市

2 障害者(要援護者)の避難方法の検討

日頃から住民同士で挨拶を交わすなど、顔の見える関係をつくり、いざ風水害が発生したときに、近隣の住民が支援の必要な人に声掛けや、一緒に避難をすることができる環境づくりが大切です。

自治会町内会役員や民生委員・児童委員と支援が必要な人で避難方法をあらかじめ相談しておきましょう。



3 避難場所の確認

台風や大雨は事前に発生や規模をある程度確認することが可能です。

避難のサインを参考に、危険が迫る前に早めに避難を開始するためにも、避難場所を事前に検討しておきましょう。

また、避難場所内での感染症対策として、3密回避のためにも、自宅内の安全な場所に避難する『在宅避難』や、安全な近隣の親類や知人宅への避難も検討しましょう。

● 最新の情報を入手しましょう。

避難情報や避難場所の開設状況等の最新情報は、横浜市防災情報ポータルや防災情報Eメール、自動音声案内で確認できます。

横浜市防災情報ポータル

横浜市防災情報Eメール

● 自動音声案内 ※通話料がかかります
港南区緊急時情報伝達システム
電話 050-5490-3993

港南区の風水害時の避難場所

風水害時に開設される避難場所は災害の規模で異なります。港南区では次の3つの状況により避難場所を開設します。

● 3つの状況

- 状況Ⅰ 土砂災害警戒情報の発表(可能性があるとき)
- 状況Ⅱ 河川の増水による洪水の発生(恐れがあるとき)
- 状況Ⅲ 区内全域で多くの被害の発生(恐れがあるとき)

● 開設する避難場所

開設は○

避難場所	状況			対象河川
	I	II	III	
①港南地区センター	○	○	○	
②野庭地区センター	○	○	○	
③永谷地区センター	○	○	○	
④永谷小学校		○	○	平戸永谷川/ 芹谷川
⑤永谷高校		○	○	
⑥日下小学校		○	○	大岡川
⑦横浜南陵高校		○	○	大岡川/日野川
⑧東永谷地区センター			○	
⑨港南台地区センター			○	
⑩永野小学校			○	
⑪桜岡小学校			○	
⑫丸山台小学校			○	
⑬齊信館(横浜刑務所)			○	

開設状況については、横浜市防災情報ポータルか、問合せ先でご確認ください。

4 非常時の持ち出し品の準備

雨合羽、厚底の運動靴、懐中電灯、携帯ラジオ、食料、飲料水、薬、タオル、衣類のほか感染症対策として、マスクなどもすぐに持ち出せるように備えましょう。

障害別必要品として

- 折りたたみ式白杖 ● 携帯型点字器
 - ボイスレコーダー ● 拡大ルーペ ● 補聴器
 - 点眼薬 ● 紙と筆記用具 ● ヘルプカード
- なども忘れずに

また、手動型車いすなども持ち出し品袋の近くに備えておくといでしょう。



5 住宅環境の整備

側溝や排水溝の清掃、雨戸や雨どいの確認、屋根の瓦や雨漏りの確認をしましょう。

また、飛ばされそうな物の固定や撤去をしましょう。



避難情報等(警戒レベル)

警戒レベル	避難情報等	発令・発表元	とるべき行動
警戒レベル5	緊急安全確保	↑	命の危険直ちに安全確保! ●既に災害が発生しており、命を守るための最善の行動をとる。
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難!> ~~~~~			
警戒レベル4	避難指示	横浜市	<b>危険な場所から全員避難</b> ●直ちに身の安全を確保できる場所へ避難する。 ●避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難する。  天候や水位の急変時には、高齢者等避難を経ずに避難指示を発令することがあります。
警戒レベル3	高齢者等避難	↓	<b>危険な場所から高齢者等は避難</b> ●避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は、避難場所へ避難を開始する。 ●その他の人は、家族などと連絡、持ち出し品の用意など、避難の準備を開始するとともに、危険だと思ったら早めに避難する。
警戒レベル2	大雨・洪水注意報等	気象庁	●避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認する。 ●避難情報の入手方法を確認する。
警戒レベル1	早期注意情報	↓	●災害への心構えを高める。 ●防災気象情報等の最新情報に注意する。

河川水位や雨の情報(警戒レベル相当情報)

防災気象情報(警戒レベル相当情報)	
浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)
*気象情報、水位情報が発表されたことに伴い、直ちに横浜市から避難指示等が発令されるわけではありません。	
5相当	はん濫発生情報 大雨特別警報(土砂災害)
4相当	はん濫危険情報 土砂災害警戒情報
3相当	はん濫警戒情報 洪水警報 大雨警報
2相当	はん濫注意情報 —
1相当	— —



「避難のサイン」の確認

小石がパラパラ落下するなどのがけ崩れの前兆現象や、下水道などからの浸水、警戒レベル3高齢者等避難、警戒レベル4避難指示、河川のはん濫情報といった「避難のサイン」を参考に、危険が迫る前に早めに避難を開始しましょう。

避難のサイン(情報は早めに!)

下水道などからの浸水

河川はん濫の危険

- テレビ・ラジオ・横浜市ホームページなどで気象情報に注意しましょう。
- 横浜市ホームページなどで河川の状況を確認しましょう。
- 外の様子に注意しましょう。  
※側溝やマンホールから大量に水があふれる。

(注)近年は鬼怒川のはん濫のように、河川の上流地域に集中豪雨があると、下流地域では降水量があまりない場合でも短時間で河川がはん濫することがあります。河川上流地域の気象情報の確認も大切です。

土砂災害の危険

- 小石がパラパラ落下
- 斜面に湧水が発生
- 斜面に亀裂が発生など

がけ崩れの前兆現象

高齢者等避難、避難指示の発令

避難行動(早めに行動!)

- 安全な場所へ避難  
(指定緊急避難場所等の避難場所、近くの高台、土砂災害警戒区域外の親戚の家など)

水平避難



- 頑丈な建物の2階以上または、近隣の高い建物へ避難

垂直避難



- 建物内の安全な場所へ退避  
(夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ避難するとかえって危険な場合)

(斜面の反対側) 屋内退避

